

深い学びの実現をめざした道徳科授業づくり

伊澤 真佐子（研究代表・教職大学院） 藤本 典子（教職大学院）

梶本 久子、山崎 亮子、谷口 聖人（和歌山市立楠見小学校）

岩崎 直輝（和歌山市立木本小学校）

上田 量平（教職大学院マネジメントコース院生、紀美野町立下神野小学校）

1. はじめに

「道徳科の目標」には、「自己の生き方についての考えを深める学習」¹と記されている。そのためには、「考えの深まりが実感できる授業づくり」をしなくてはならない。そこで、一つの方法として、今回思考の可視化を手がかりに研究を進めることにした。考えるツールとして、イメージマップ(ウエビング)を使った。このツールの特徴としては、①短い言葉で簡単に表現できる②様々な角度から考えられる③本音を書きやすい④可視性に優れる⑤思考プロセスがわかりやすい⑥加筆がしやすい⑦自己評価の材料になる²等が挙げられている。「新発問パターン大全集」にも「導入で用いたイメージマップに、授業後半で新たに見出した価値を付け足すという方法をとれば、価値の変容や深まりを自覚させることができます」³と記されている。

今回、上記の特徴を活かしながら導入と終末でイメージマップを用いることで、自分のもっている価値の変容や深まりが自覚できるのではないかと考え、実践を行った。

2. 紀美野町立下神野小学校 上田量平教諭の実践 (小学校6年生)

上田教諭(以下授業者)は、「考えを深める道徳科」に迫るために教材研究用に「授業構想シート」を作成した。その下にイメージマップを入れている。

まず、シートに記した「深めたい価値」を中心に記し、「深めたい価値に対する前理解」を予想して書く。次に、深めたい価値への理解が高まった状態で児童から引き出したい言葉の色を変えて付け足す、というものである。イメージマップを教材研究に取り入れることで授業構想の有効な手立てになると考えたからである。さらに、授業構想で作成したイメージマップを授業板書に活用し、授業を展開していくことにもつなげた。(図1)

以下、1学期と2学期の実践を取り上げる。

2.1 「緑の闘士 - ワンガリ・マータイ -」(日本文教出版)の実践から R3. 6.16

内容項目：D自然愛護 主題名：持続可能な社会
作成したイメージマップの欄は、「心情」「行動」「価値理解」に3分割し、前理解をかき分けられるようにしている。

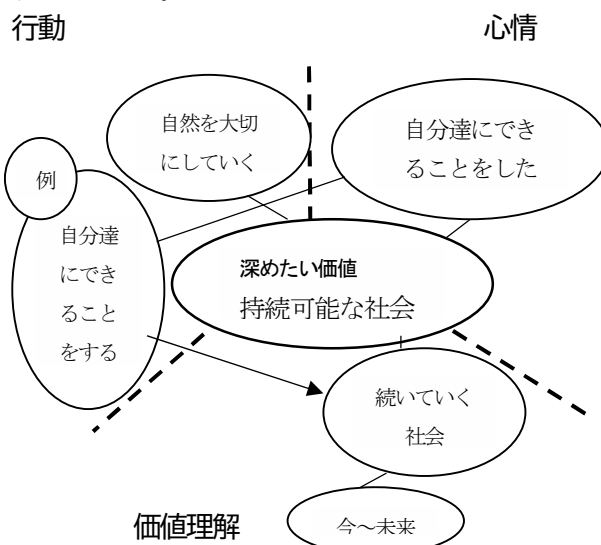


図1 授業構想シートにおけるイメージマップ(教材研究時)

この教材は、「もったいない」という言葉を広め、自然環境保護活動に取り組むマータイさんの姿とそれを受け継いで植林活動を続けている人々の姿を写真とともに紹介している。

導入での話し合いを抜粋する。

T: 持続可能な社会って聞いて、何を思いつく?
C: 5年生の社会で習った。
C: 3アール。エコのこと。
T: 言葉の意味はわかりますか。
C: 使い捨ての物をもう一回使う。靴とか。
T: 社会で勉強したことが残っているから、つなげていくといいね。

このように、導入時の前理解では、社会科で習ったことをイメージする児童が多かった。

中心発問「マータイさんはどんな思いで『もったいない』という言葉を広めて環境保護をしたのでしょうか」では下のような考えがワークシートに書かれていた。

- A 昔の人は、自分たちが自然のもつ力に助けられていることを知っていて、その力を敬い、神様だと思って、大切にしてきた。それをなくしてしまうのはもったいないし、今や未来に伝えていかないといけない。
- B いらぬものを捨てるんじゃなくて応用できるか考えてほしい。
- C このままでは自然がなくなる。世界にケニアのような状況について考え方を改めてほしい。今のみんなに伝えないと。未来の子どもにうけついでほしい。先のこと→持続可能。

A 児やC 児は、環境保護を未来に伝えていこうとする強い気持ちを感じている。B 児はするべき行動を考えている。

この3人の振り返り（わかったこと・大切だと思ったこと）の記述を示す。

- A 今を続けていって、自分たちが伝えていったり、自分たちができることができたりすることが大切だと思った。
- B 国は楽な方だけじゃなくて、国の持ちようも活かすことが大切だ。
- C 私たちにできること最低限しようと思った。

このように「持続可能な社会」ということが意識されている。教材研究時の授業構想シートには、児童から引き出したい言葉として「自分達にできることをする（したい）」「自然を大切にしていこう」が考えられていたが、実践時の終末では右の2つ「ずっと続けられる」「未来へ」が付け足された。



図2 授業後の板書（右の2つが加えられた）

この教材は今日的課題である環境問題に触れSDGsにも関係している。私たちができるとして「食べ残しをゼロにする」「現状を知る」「もったいないを共感してもらう」「3Rや植林活動続ける」

などの意見も話し合いで出されていた。

2.2 「手品師」（日本文教出版）の実践から

R3.9.15

内容項目：A正直、誠実 主題名：誠実に生きる

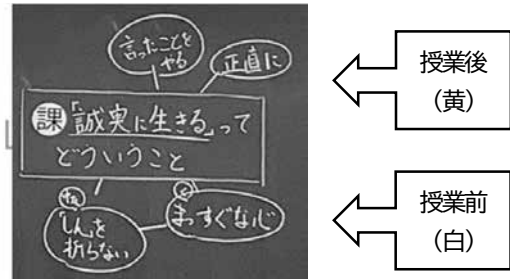


図3 板書でのイメージマップ

2学期になり、1人1台 iPad 端末を用いて導入時とまとめ時に自分でイメージマップを書いていた。

導入での、「誠実に生きる」ってどういうことという課題に対し、『「しん」を折らない』『まっすぐな心』など、「誠実」を辞書で調べた答えしか出なかった。

中心発問である手品師の心の葛藤場面では（明日、大劇場に行くか約束した一人の男の子に手品を見せに行くか）を役割演技も入れながら考え、話し合った後、もう一度課題について個人で考え書き足していった。全体で出された意見では、図3のようになった。色を変えて変容が分かるようにしている。

個人の iPad も、導入時は白、まとめは赤で書くようにしている。提出箱に出すことで、皆の意見を見ながら自分のイメージマップを完成させることもでき、振り返りを書くときに参考にしている児童もいた。

D 児(導入時) ・まじめに生きること (まとめ) ・正直 ・人を喜ばせる	E 児(導入時) ・真心 (まとめ) ・やくそくをまもる ・「しん」を折らない
---	---

図4 iPad への個人の書き込み



図5 友達のイメージマップを見ながら振り返りを書く児童

3. 和歌山市立楠見小学校 山崎 亮子教諭の実践 (小学校5年生)

山崎教諭(以下授業者)も導入と終末にイメージマップを取り入れて道徳の授業を行っている。気取らずに本音を言ってほしいという思いから、どこに何を書くかということは分けていない。変容が分かるように教材を学んだ後は赤で書くようにしている。めあてとまとめも別に板書をして、学びを意識するようにしている。

3.1 「サタデースクール」(日本文教出版)の実践から R3.6.15

内容項目:「勤労、公共の精神」 主題:働く喜び

この教材の学校では、学期に一回土曜日に地域の人と公園の掃除をすることになったが、わたしたちは、自分たちで週に一回掃除をすることにし、それが他の児童にも広がっていくという話である。

導入では、「仕事について考えてみよう。学校での仕事って言うとは何を思い出す?」から始めた。児童は、「掃除」「日直」「係」「委員会活動」「水やり」「給食当番」と発言した。次に「家での仕事ってある?」と聞くと「食器洗い」「水筒やお箸を洗う」「洗濯機を回してたたむ」が出された。そこで、「そんなときの『仕事をする』と・・・』どう続く?やっているとときの気持ちはどう続く?」と聞き、導入のイメージマップを板書の左側に描いた。

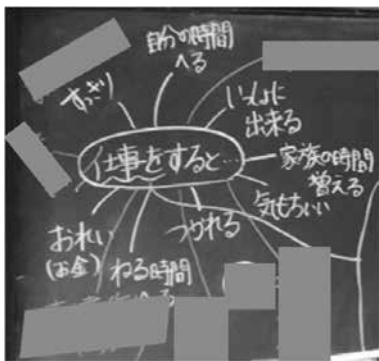


図6 導入時のイメージマップ

基本発問の後、役割演技も入れ、一週間に一度掃除をすると決めるまでに、結構悩んでいたことを話し合った。そして、中心発問である「こんなに悩んでいたのにどうして続けられたのか」を自分のノートに書き、ペアで話し合い意見を交換した。その時の様子を授業記録から抜粋する。

- T: どんな気持ちだったかな。
C: 褒められたから、嬉しい。
C: 掃除やって、楽しかったから。きれいになって嬉

- しい。
C: きれいにしたから、他の人も遊びやすいから。
C: みんなが過ごしやすい公園をつくらうと思ったら頑張れた。
T: 自分だけじゃないんやな。
C: いろいろな人が使うところやから、気持ちよく使うために頑張って掃除した。
C: 頑張ってやろうと思ったらできるかもしれない。時間があるか心配やったけど、時間の使い方を工夫したらいけそう。
C: 45ページの最後に書いているんだけど、「私たちの公園です」と胸をはっていたかったから。
C: みんなと一緒に掃除をしているから。
T: ひとりだったら、どうなったか分からないね。その後、授業のまとめに入った。「勉強する前、『仕事をすると・・・』このようなのが出たけど(図6)勉強した後、付け足すとすると」と問いかけた。児童から出た意見を下に記す。

- C: 掃除をすると、みんなが使いやすくてすっきりする
C: 掃除をすると楽しい。
C: 仕事をすると達成感がある。
T: 言葉にするって難しいよね。短くてもいいから言ってみて。
C: 掃除とか、そういう時間をしてると長く思う。
T: 長くって、いいこと?悪いこと?
C: いいこと。
C: 公園、他の子が使ってくれたりして友達ができるかもしれない。
C: 掃除をすると、きれいになって嬉しい。

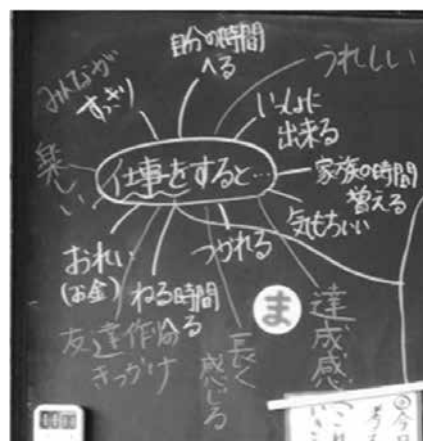


図7 授業後のイメージマップ

図7のように「みんなが」「楽しい」「達成感」「長く感じる」「友達作りのきっかけ」の言葉を付け加え、自分の生活経験に戻り振り返りを書いた。

4. 和歌山市立楠見小学校 谷口 聖人教諭の実践 (小学校5年生)

谷口教諭(以下授業者)も今年導入と終末にイメージマップを取り入れて授業を行っている。導入では、全体的話し合いで、中央上半分にイメージマップをかき、終末では、各自ノートに書いた後発表させる形をとっている。本稿では、1学期の実践と2学期の実践を取り上げる。

4.1 「サタデースクール」(日本文教出版)の実践から R3.6.17

山崎教諭と同じ教材で授業実践を行った。導入では、「仕事」を書き、思い浮かべるものを聞いた。



図8 導入時のイメージマップ

このように、仕事という言葉で問いかけたので、「給料」「会議」「働く」「社会」「大人の人」などの意見が出された。授業者が「大人の仕事？」と聞くと「子供もしている」「お手伝いをしているのも仕事じゃないかな」「社会人になるための準備」などが出された。

「仕事について考えよう」と板書き、範読をする。

まず掃除を終えたときの気持ちを考え、次に「週に一回掃除をしない？」と提案されたときの気持ちを考え、話し合った。その後、中心発問である「どうして掃除を続けられたのか」について話し合った。以下授業の抜粋である。

- T どうしてあのメンバーは掃除を続けられたのでしょうか。
- C 掃除をすると町もきれいになるしスッキリする。
- C 掃除をしたら色々な人が見てくれる。
- C ほめてもらえたら、もっと元気が出る。
- C 公園をきれいにするのもっともきれいにして楽しくなる。
- T 掃除が楽しい？掃除が楽しいってどういうこと？
- C 掃除は大切と思っている。
- C 掃除をしたらスッキリして気持ちがいいから。
- T その楽しさって、おいしいものを食べるとかゲー

ムをするとかの楽しさと同じかな。

- C ゲームだったら普通に楽しくて掃除やったら達成感がある。
- C そうじゃってて、ほめられた時がうれしい。
- C ゲームは夢中になったら楽しいけど、掃除は先のことを考えて楽しい。
- C 仕事は人のためにするけど、ゲームは自分が楽しい。
- C 掃除だったらほめられるから。

このように、遊びと違うことを考え、「最初のイメージと比べてどう？」と問いかけ、まん中に仕事と各自のノートに書き今日学んだことを書いた。



図9 授業後のイメージマップ

授業者がどんな言葉を増やせたかを聞くと「家族のため」「目標がある」「みんなが生きるため」「ほめてもらえる」「みんなのためもあるし自分のためもある」「人により人生の体験ができて人により楽しいもの」「達成感がある」「ほめられてうれしい」「どんどん仕事をしていくこと」「成長する」「ゲームの楽しさと違う」「お金をもらうわけではない」など意見が次々と出された。

4.2 「真由班長になる」の実践 R3.11.16

内容項目：よりよい学校生活、集団生活の充実

主題：集団での役割

この教材は、フロンティアスクールで初めて班長となった真由が、1日目の反省から班長の役割について考え直し、2日目は思い切って行動し班活動がうまくいくという話である。

授業者の学級では、ちょうど3週間後に合宿をひかえていることもあり、班長や班長を支援して協力し合う集団の役割について考えるのに適した教材であった。

導入では、「役割」について考えた。児童の意見を聞きながら「自分の役割」について考え、「マイナスイメージ？」と聞くと「プラスもある」「やらせても

らう時もある」などが出された。その後「役割を果たすために大切なことって？」とめあてを書き範読を行った。

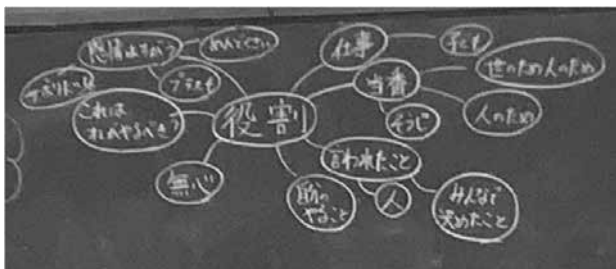


図10 導入時のイメージマップ

一日目、注意してばかりの真由の気持ちを考えた後、二日目、反省した後の緊張した気持ちを考え、中心発問である「にっこり笑い返した」真由の気持ちを考えた。その後、リーダーとしての役割に気付いた真由なら1日目はどうしたか、役割演技をし、「役割を果たすために大切なこと」を考えた。

児童からは、「一人じゃなくて、みんなの意見を聞く」「注意するだけじゃなくて、優しく言う」が出された。

もう一度イメージマップに戻って問うと、「リーダーになったらまとめやなあかん」「他の子の意見を聞かなあかん」「きつく言われたら逆にいやになる」「相手のことを考えやなあかん」が出された。

授業者が「これって、リーダーだけですか」と聞くと「みんながまとまらないといけない」という意見が出され、それぞれに役割があることも気づくようにして授業を終えた。



図11 話し合い後のイメージマップ

5. 成果と課題

このように、道徳科の授業でイメージマップを活用した授業を実践した。成果を三つ記す。

一つ目は、児童の思考の変容が見取りやすいことである。授業前後における、内容項目についてのイメージマップの変化を見ることで、一時間の授業で自分の価値観が深まったことが児童自身もわかりやすくなる。山崎教諭、谷口教諭は、「授業の充実感を

感じる子が多かった」と振り返る。

二つ目は、本時の学びたい内容が明確に捉えられることである。中心を見て課題をつかみやすく、文章で書きづらい児童も単語で書くことができる。また、友達同士の意見のつながりや、導入時と終末時の意見のつながりを簡単に線で表すことができる。

三つ目に、児童がイメージマップをもとに終末の振り返りを書くので考えを深められることである。上田教諭の学級では iPad のロイロノート上にイメージマップのシートを保存することで、過去の学びを振り返ることができた。以下に上田教諭の学級の児童の意見を記す。

○自分の考えを整理しやすい○振り返りを書きやすい○自分の考えと友達のを比べられる○イメージマップをロイロノートに残すことで、前に勉強した内容をいつでも見られる○意見が深まったことが分かる○意見と意見のつながりが分かる

授業者も、「教材研究時にイメージマップをかいてみることで、自分が本時でねらうことがはっきりとしやすく、板書にも使えるので良かった」と成果を感じている。

課題としては、教材によって使いづらいものもあることや、導入と終末に時間がかかること、板書計画が難しいことが挙げられる。また、イメージマップは単語でかくことが多いので、教師が引き出した単語を書いているからといって児童が本当にねらいに近づいているのか読み取りづらい面がある。

諸富(2020)²は、イメージマップ(ウェビング)を「考えを広めたり、深めたりしていくための最強のツール」と記し、「子どもたちの貴重な発言をきちんと広げて後につなぐのは優れた授業者に共通する点」と記している。

子どもたちの発言を広げて後につないでいくことは深い学びにつながる。イメージマップを活用することにおいて課題はあるものの一定の成果が見られた。思考のプロセスを視覚化し、深い学びを実現するような授業をこれからも目指していきたい。

参考文献

- 1 学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編
- 2 諸富祥彦・土田雄一「考えるツール&議論するツールでつくる小学校道徳の新授業プラン」 明治図書 2020
- 3 道徳教育編集部編「新発問パターン大全集」 明治図書 2019